

平成28年7月14日（木）福岡会場

“認知症の人にやさしいまち・うじ”を 目指して

～れもんカフェの取組みを中心に～

＜京都府宇治市＞

（一財）宇治市福祉サービス公社
中宇治地域包括支援センター
社会福祉士 佐野友美





宇治市の概要

宇治市は京都府の南端に近く、京都盆地の東南部に位置し、京都市や大津市などと接する位置にあります。



宇治市の地形は、大別して、東部の山間地帯、中央部の山麓丘陵地帯、西部の沖積低地の3つに区分できます。また、林野面積が市域の半分以上を占めています。

交通網としては、京滋バイパスや市の西部を南北に縦断する国道24号線、市の中心部を通るJR奈良線、京阪電気鉄道、近畿日本鉄道があり、これらを中心として、バス路線や地方道が張り巡らされています。

<面積> 67.54km²

<産業> 宇治茶、任天堂、ユニチカ(繊維)など



宇治市の概要

平成28年4月1日現在

人口	189, 136人
65歳以上人口	51, 165人
高齢化率	27. 1%
日常生活圏域数	6
地域包括支援センター	6か所＋支所2か所
認知症地域支援推進員	3人
認知症疾患医療センター(地域型)	2か所



認知症事業のとりくみ

	認知症	事業開始年度
18年度	○認知症対策総合企画推進事業を創設	○認知症予防講座開始
19年度	○認知症地域包括支援体制構築推進事業を創設	○市職員、地域包括支援センター職員等が京都府キャラバン・メイト養成講座を受講 ○認知症あんしんサポーター養成講座を開始
20年度	○認知症ケア高度化推進事業を創設 ○認知症疾患医療センター設置	○認知症地域支援体制構築モデル事業受託（京都府） ○地域資源マップ（御用聞き）作成 ○認知症キャラバン・メイト養成講座開始（2年に1回） ○認知症家族支援プログラム開始 ○地区医師アンケートの実施
21年度	○「認知症の医療と生活の接点を高める契機プロジェクト」の掲出 ○認知症対策普及・啓発推進事業 ○認知症対策推進高度化推進 ○若年性認知症対策総合推進事業を創設	○認知症地域支援体制構築モデル事業受託（京都府） ○認知症市民研修会 ○認知症家族支援プログラムOB会開始 ○医療連携・地域連携会議 ○認知症対応能力向上研修会・事例検討会開始
22年度	○介護マークの全国普及	○宇治市認知症地域支援事業開始 ○宇治市認知症事例集作成 ○もの忘れ連絡シート作成
23年度		○認知症医療体制・地域体制検討会議 ○宇治市認知症事例集発行 ○認知症疾患医療センター設置（京都府立洛南病院）（10月）
24年度	○認知症施策推進5カ年計画（オレンジプラン）策定	○地域包括ケア会議開始 ○認知症疾患医療センター設置（宇治おうばく病院）（12月） ○認知症初期集中支援事業設置促進モデル事業受託（国）
25年度		○初期認知症総合相談支援事業開始（京都府地域包括ケア総合交付金活用） ・認知症対応型カフェ開始
26年度		○脳活性化事業開始 ○宇治市初期認知症総合相談支援事業開始（地域支援事業）

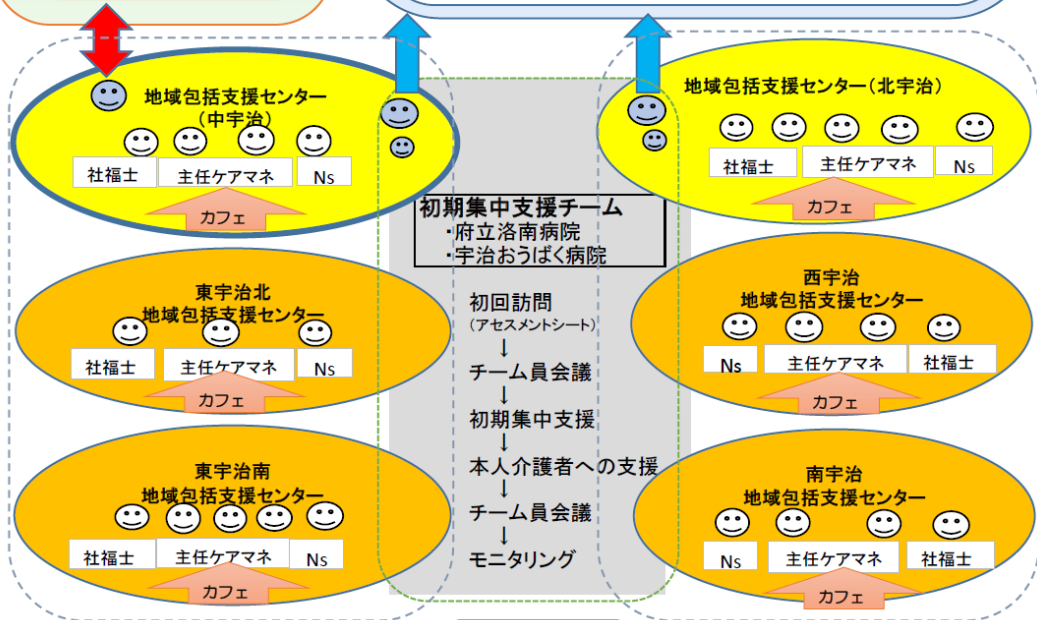
★ 初期認知症総合相談支援事業 ★ 認知症の人にやさしいまち・うじ推進事業

認知症コーディネーター(認知症地域支援推進員): 中宇治(公社)

- ・認知症研修会の開催
- ・認知症講演会
- ・認知症対応型カフェの企画調整
- ・れもねいど(認知症アクション・アライアンス)事務局
- ・認知症関連事業事務局
(認知症あんしんサポーター養成講座、キャラバン・メイト、認知症家族支援プログラム及び鈴の音会(認知症家族支援プログラムOB会))
- ・認知症関連会議への出席

認知症コーディネーター: 中宇治(公社:チーフ)・北宇治(明星園)

- ・二次予防事業該当者訪問(認知症項目2/3以上)
- ・認知症講演会
- ・認知症対応型カフェの企画及び管理 ※当日運営は各包括
- ・担当圏域との調整会議(事例検討等)
- ・れもねいど(認知症アクション・アライアンス活動)
- ・認知症ケアバスの更新
- ・医療・福祉の関係機関との連携
- ・認知症関連会議への出席
- ・認知症初期集中支援チームの一員としての活動



認知症講演会
 初期集中支援チーム普及啓発事業:市直営
 市民が認知症について正しく理解するための普及啓発

DAAフォーラム:公社委託
 れもねいどの主旨を市民や企業に広げ、
 認知症の人にやさしいまち・うじを市全体に広げる

認知症初期集中支援チーム検討委員会(市直営)
 認知症初期集中支援チームの設置および活動の検討、一体的に事業を推進していく上での合意の場

早期に認知症の人と出会うことができても、初期の認知症の方が利用できる支援が整っていなければケアが途切れてしまう。また、地域住民の認知症に対する理解がなければ、地域の中で暮らしている認知症の方は生活のしづらさを感じる。

⇒そのため、宇治市では認知症関連事業を一体的に進めている

- 「二次予防事業該当者訪問」や「認知症初期集中支援チーム」で**早期に出会い**、**必要な支援**へつなぐ
- れもんカフェが**ご本人の活動の場や居場所**となる
- 認知症家族支援プログラムや鈴音会で**ご家族を支援**
- れもんカフェ、認知症あんしんサポーター養成講座、認知症の連続講座などで**住民への啓発活動**を行う

初期認知症総合相談支援事業 各事業の関係図

普及・啓発

れもねいど

医療・福祉・介護の分野にとどまらず
町全体での取り組み

認知症講演会

認知症を正しく
理解するための
連続講座

認知症
あんしんサポ
ーター養成講座

キャラバン・メイト
事務局

れもんパス
(3つにまたがる)

れもんカフェ



二次予防事業
該当者訪問

初期集中
支援チーム

家族支援プログ
ラム・OB会

個別支援
(本人支援)

家族支援



宇治市が求める認知症地域支援推進員の役割

宇治市の認知症ケアの中心を担うのが「認知症コーディネーター」です。3名の専門職が担当しています。

認知症の予防、正しい知識の普及啓発、家族支援、早期支援のすべての事業を把握し、それぞれ必要とする方に適した事業をご案内します。

また認知症の人やその家族が生活しやすいよう、地域の医療や介護、福祉、また生活に関わるすべての分野の事業所、団体等との関係づくりを行い、「認知症の人にやさしいまち・うじ」のネットワークを広げていきます。

認知症カフェ(れもんカフェ)の取り組み



れもんカフェイメージキャラクターの
れもんちゃんと山本正宇治市長



れもんカフェの始まり

今までの

支援がない

生活に何らかの支障が出てからの相談。介護保険サービス等の利用。生活の立て直しに時間を要することに…

ケースの深刻化…

支援の焦げつき…

認知症の疑い

認知症
軽度～中等度

認知症重度

現在

れもんカフェという場
初期集中支援チームと
いう機能…他

早い段階から関わりを持つことで、今後の生活に対して、備えることができる。必要時にスムーズに支援を受けることができる。



れもんカフェ経過（抜粋）

<平成25年度>カフェという新しい場づくり

- 平成25年 6月 れもんカフェ 第1号店OPEN！
⇒1年目は4圏域で開催（北・東南・東北・西）
- 8月 認知症初期集中支援チームも始まり、カフェとチームが連動

<平成26年度>当事者が自然に登場できる基盤作り

- 平成26年 包括6圏域全てでれもんカフェ開催
- 5月 山本宇治市長がカフェに参加
その5日後に「認知症の人にやさしいまち・うじ」を目指す
意向を表明
- 11月 G8（認知症サミット日本後継イベント）を当事者の皆さんと
カフェで一緒に迎える
- 平成27年 3月 第1回認知症フォーラムin宇治を開催
「認知症の人にやさしいまち・うじ」を市長が宣言

<平成27年度>当事者がカフェに登場！認知症の疾病観を変える

- 平成27年 4月 認知症カフェの第1部で認知症当事者が語り部として登場
当日の進行や運営の中心を各地域包括支援センターが担う
- 平成28年 3月 第2回認知症フォーラムin宇治を開催
「宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど”」始動



関係機関との連携

○開催圏域の地域包括支援センター

開催までの声かけ、当日の運営協力・相談対応

○会場としてお借りする喫茶店

認知症事業への理解

（認知症あんしんサポーター養成講座の開催等）

れもんカフェの参加者が喫茶店の常連に…

喫茶店として独自で集りを開催

（コミュニティカフェ、歌の会…）

○ボランティア

①れもんサポーター（専門職ボランティア）

カフェへの参加、コンタクトパーソンの役割

②コーヒーボランティア

○民生・児童委員、学区福祉委員など

カフェとはどのような場所か知っていただく（研修・参加）

地域での声かけ、コンタクトパーソンの役割

地域で独自に開催しようと計画されている方も！

れもんカフェの役割

①本人・家族支援

認知症の人、家族が安心して過ごせる居場所。認知症ということを感じずに交流できる。家族同士の情報交換ができる。

本人の能力を発揮できる。

②相談機能

認知症等の不安がある人、家族が気軽に相談できる。

（圏域担当の地域包括支援センター職員や初期集中支援チームが対応）

③普及・啓発

認知症について正しい理解を深められる場所。認知症の疾病観を変える場所。専門職にとっての学びの場（OJTの場）。

④ケアネットワーク

認知症の人、家族、専門職、支える地域の人たちが出会える場所。自然な出会いで、必要とされる機会へつながる。



れもんカフェの概要

【開催場所】

市内6拠点（地域包括支援センター6圏域ごと開催）

【開催日時】

不定期開催（土曜か日曜 1時間30分程度）

【対象者】

宇治市内在住の方

【参加方法】

事前申込不要

※会場によって申込制のところもあります

【費用】

お一人300円（飲み物・お菓子付き）

【スタッフ】

圏域担当の地域包括支援センター

認知症コーディネーター

専門職ボランティア 他





れもんカフェの流れ

参考

- 14:00～ カフェ開店
第1部 認知症についてのお話
専門医など
- 14:40～ 第2部 ミニコンサート
地域の音楽家たちによる演奏など
(ピアノ、ギター、フルート、二胡など)
- 15:00～ 第3部 カフェ・交流タイム
コーヒーを飲みながらおしゃべり
それぞれのテーブルで交流
歌を披露される方もおられたり…
- 15:30頃 閉店
カフェ終了後には専門職のスタッフが個別の相談を
受ける時間も設けている

※スタッフはカフェの前後にミーティングを実施

《宇治市初期認知症総合相談支援事業》
平成28年度4月～9月

～認知症の人にやさしいまち・うじ～

れもんカフェ

宇治市の委託事業として市内の地域包括支援センター圏域ごとにれもんカフェを開催しています。れもんカフェとは、認知症の方やそのご家族、また認知症の不安のある方や地域の方などが気軽に集えるカフェです♪



第1部のミニ講義

★当日の内容★
 第1部 認知症についてのお話
 第2部 ミニコンサート
 第3部 カフェ・交流タイム

カフェ終了後にはスタッフが個別に相談をお受けする時間も設けています。



▲れもんカフェキャラクターの
れもんちゃんと山本正宇治市長

ミニコンサート
みんなで歌いましょう♪



【参加対象者】 宇治市内在住の方

【参加費】 いずれの会場も300円（飲み物・お菓子付き）

【会場・開催日】 裏面の通り
※会場へは公共交通機関をご利用ください。

【開催時間】 午後2時～午後3時半

【申し込み】 不要（先着順）。ただし、当日定員になり次第、締め切らせていただきますのでご了承ください。

★平成28年4月～9月の開催予定一覧★

圏域	会場	日程	定員
北	①地域交流型カフェ・レストラン リオス まきしま Reos 横島 (横島町十一 173-1)	4月10日(日)	40名
		5月 8日(日)	
		6月 5日(日)	
		7月 3日(日)	
		8月14日(日)	
西	②西小倉地域福祉センター (小倉町山際 63-1) ③床の宿 Rigoletto (伊勢町田毛語 149-4)	5月28日(土)	60名
		7月23日(土)	20名
南	④とんがり山のてっぺんDE! (広野町尖山 4-681)	6月18日(土)	15名
		9月17日(土)	
中	⑤カフェ・アドリアーナ・ノーヴェ (宇治東内 8-1) ⑥広野地域福祉センター (広野町大開 72-1)	5月21日(土)	15名
		8月27日(土)	20名
東北	⑦カフェクラリネ (木幡御園 52-11)	6月25日(土)	30名
		9月10日(土)	30名
東南	⑧東宇治地域福祉センター (五ヶ庄折坂 5-149) ⑨コーヒーショップ オーキタ (五ヶ庄西川原 32-13)	4月23日(土)	60名
		7月 2日(土)	20名



お問い合わせ先

北・西・南 圏域	北宇治地域包括支援センター内	21-8123
中・東北・東南 圏域	中宇治地域包括支援センター内	28-3686

れもんカフェの風景 (Reos 榎島)

参考



れもんカフェの風景（地域福祉センター）

参考



れもんカフェの風景（その他の会場）

参考





平成25年～平成27年 経過

	開催圏域	開催回数	延べ参加人数
平成25年度	地域包括支援センター4圏域	20回	598人
平成26年度	地域包括支援センター6圏域	33回	1,099人
平成27年度	地域包括支援センター6圏域	33回	876人

- れもんカフェ（宇治市の委託事業）以外にも、NPO法人や社会福祉法人も独自で認知症カフェやコミュニティカフェを開催している。



取り組みの中で見えた課題（一部）

○開かれた場にするのか、閉じられた場にするのか…

「閉じられた空間」から「開かれた場」にすることで参加者の中に生まれた“緊張”。

⇒当事者を専門職が（自然に）プロテクトすることから始まった。

「当事者の居場所的な空間」＋誰もが参加できる「開かれた空間」

○誰が中心のカフェなのか（当事者？地域の人？…）

⇒認知症のご本人とご家族が中心！

啓発型のカフェ、居場所型のカフェという考え方

○会場の広さと声かけの仕方

⇒事前申込不要がカフェの良さ。

会場の広さ、どのような人に来てほしいかを考えて声かけの対象を変える（地域包括支援センターの力！）。

○当事者が中心のカフェにする

⇒当事者の自由な参加の形



れもんカフェの参加者の状況 (新しい場の機能・効果)

★色々な参加の形があります。認知症のご本人もご家族も、地域の人も専門職も、分け隔てなく自然に交流できるそんな雰囲気がかフェの特徴です。

97歳の要支援の認定を受けている男性。自転車でカフェへ登場、カフェの最後には大好きな演歌をアカペラで披露。

夫と2人暮らしの女性。カフェには夫と市内に住む娘夫婦と4人で参加。カフェでご本人が笑顔で歌を歌っている姿を見て、娘夫婦も笑顔に。



認知症の診断を受けている女性。得意の生け花でれもんカフェの会場を華やかに演出してくださる。

認知症の診断を受けている男性。れもんカフェへの参加がきっかけで、れもんカフェが開催していないときも会場となっているカフェを利用するようになった。



認知症初期集中支援チームとの連動 (新しい場と機能の効果)

1. 支援の「つなぎ先」としてのれもんカフェ

- 初期集中支援チームが関わっているケースの支援のつなぎ先として紹介。
- チームの関わりが終了した後も、本人と家族の見守りの場として活用。

2. 支援の「入口」としてのれもんカフェ

- れもんカフェで受けた相談を初期集中支援チームにつなげる。
- れもんカフェが出会いの場になる。



認知症地域支援推進員としての課題

- 事業同士のつながりを意識する。
新しい事業を立ち上げる時、その部分に集中しがちだがすでにある事業や地域の取り組み、資源をつなげていく視点を忘れない。
- イベントで終わらせない。継続していくことの重要性。
(PDCAサイクル・事業評価⇒次回に活かす)
- 常に当事者の声を中心に。
- 担い手の育成、活動の場づくり
眠っている人材の発掘。どのように活躍してもらおうか。



今後の活動の方向

○宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど”の始動！！

認知症当事者の
声を施策の中心
に置く

医療・福祉・介
護の分野を超え
た広範囲のネッ
トワーク形成

まち全体に活動
を広げるための
地域づくり・人
づくり（世代を
超えて）

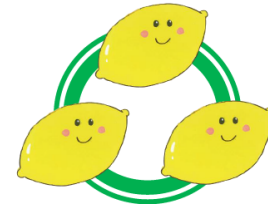
<れもんカフェ>

- 各包括へカフェの中心を引継ぎ、地域に根ざしたカフェにしていく。
- れもねいだー（ボランティア）がれもんカフェで活動できる体制づくりを行う。
- 本人、家族がもっと主体的に参加できるようにするには…。

認知症の人にやさしいまち・うじ
宇治市認知症アクションアライアンス

れもねいど (Lemon-aid)

設立趣意書



宇治市で暮らしみなさま、活動されているみなさまへ

宇治市は、平成 27 年 3 月 21 日に、全国の自治体として初めて「認知症の人にやさしいまち・うじ」を宣言しました。

『認知症の人にやさしいまち・うじ宣言』は、これまで宇治市が積極的に取り組んできた認知症施策を更に推し進めるとともに、認知症の人の視点に立ち、誰もがふるさと宇治で自分らしく尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現させるための約束を宣言したものです。（裏面「宣言文」をご参照ください。）

この宣言を実現させていくために、認知症を「自分のこと」として捉え、市民一人ひとりが認知症を正しく理解し、相手を思いやるやさしさをもって、自分のできるアクションを起こしていく、『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど (Lemon-aid)”』を設立することいたしました。

認知症の人とその家族の声を大切に、宇治市で暮らしみなさま、活動されているみなさまと共に、個人、団体を問わず力をあわせて「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現させましょう。

宇治市長 山本 正

“れもねいど (Lemon-aid)” に込めた想い

“れもねいど (Lemon-aid)” は、宇治市の認知症事業のイメージである「れもん (Lemon)」に“手伝う・援助する”という意味を持つ「えいど (aid)」という単語を組み合わせたネーミングです。宇治市全体が認知症の人に対して自発的にアクションを起こし、それが広がっていくようにとの願いを込めています。もちろん、さわやかな飲み物の「レモネード」にかけたネーミングでもあります。マークはネットワークとしてつながり、広がる様子を表現して、宇治市れもんカフェキャラクター“れもんちゃん”がつながったデザインです。

宇治市は『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど (Lemon-aid)”』として活動します。



認知症地域支援推進員のみなさまへ

**初期認知症総合相談支援事業が始まってからの
自分自身を振り返ってみて…**

**○役割分担(内部・外部)
その分、情報共有を密に行う**

**○自分と同じ方向を見ている仲間
(自分の支援者)を見つける**

◎認知症アクションアライアンスとは…

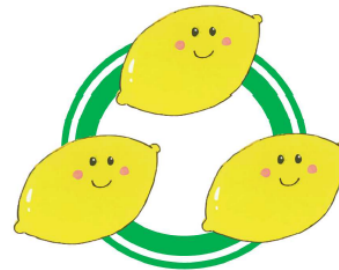
医療・福祉・介護といった専門的ケアの分野だけでなく、わたしたちの生活に関わるすべての分野で認知症を正しく理解し、それぞれの立場から出来ることを考え、行動（アクション）することが大切になります。

そこで、これまでの専門的ケアの分野での連携に加えて、市民や様々な業種が幅広く参加し、つながる広範囲なネットワークが必要となります。こうした取り組みは、すでにイギリスで先進的に取り組まれており、**DAA「Dementia Action Alliance（認知症行動同盟）」**と呼ばれています。

宇治市認知症アクションアライアンス

れもねいど (Lemon-aid) が目指すこと

宇治市では認知症を“自分のこと”と捉え、誰もがふるさと宇治で自分らしく尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けて以下の取り組みを進めます。



1. 認知症の人にやさしい「まちづくり」

- 認知症の人やその家族の声を認知症施策の立案、評価に反映させていきます。
- 認知症の人を同じまちに暮らす「生活者」としてとらえ、まち全体でつながり、見守り、サポートする「しくみ」をつくります。

2. 認知症の人にやさしい「ひとづくり」

- 子どもから大人まで認知症の正しい理解を学べる環境をつくり、認知症の人やその家族をサポートする人材を育成します。
- 意欲のある人材が活躍できる「しくみ」をつくります。

3. やさしさの「Win - Win関係づくり」

- 「Win - Win 関係」とは、相手のWin（利益）を自分のWinとして望む気持ちや、関係者みんなのWinを実現しようとする姿勢です。やさしさと思いやりの好循環を働きかけます。
- 認知症の人でもサービスや商品を購入する「お客様」です。お客様サービス向上、お客様満足度を高めようとする企業のアクションをサポートします。
- 企業のアクションが評価され、地域にPRされる「しくみ」をつくります。

あなたのアクションが「認知症の人にやさしいまち・うじ」をつくります

2025年には、高齢者のうち認知症の人は5人に1人になると推測されています。認知症はもはや「全ての人に関わること (everyone's business)」になりました。

あなたの家族、近所の顔見知りの人、そしてあなた自身が、認知症になっても、馴染みの顔に囲まれ、行きたいところへ行き、会いたい人に会える。そんな、こころ豊かに暮らせる社会をつくっていくのは、わたしたち一人ひとりです。

あなただからできることがあります。思いやりのこころを持ったアクションは、認知症の人の心に届いて、お互いを笑顔にする力があります。

あなたのアクションが「認知症の人にやさしいまち・うじ」をつくります。

第2回認知症フォーラムin宇治

平成28年3月21日開催

認知症の人にやさしいまち・うじ
第2回 認知症フォーラムin宇治
宇治市認知症アクションアライアンスれもねいど (Lemon-Aid) 始動



認知症の人にやさしいまち・うじ 宣言

悠久なる宇治川^{うづがわ}の滔々たるながれ、心安らぐ茶の香り、宇治には伝統と文化を大切にし、そこから新しいものを生み出し、わたしたちのまちを築いてきた風土があります。

超高齢社会を迎え、ある時は認知症の人を支える側として、そしてある時は認知症の当事者として、誰もが認知症とともに生きる時代になりました。

認知症を避けようとするのは、自分自身や周りの大切な人を避けることと同じです。認知症を受け入れ、その人のありのままの姿をしっかりと見ることによって、認知症とともに生きる技術、知恵、文化を築くことができます。

認知症になっても、これまでの人生で積み重ねた知識や経験を活かしてできることがたくさんあります。なにより、認知症の人が自ら語り、心豊かに暮らしている姿は、わたしたちの未来を明るく照らす道標になります。

わたしたちは約束します。

- 一、認知症の人の想いやその人らしさを尊重し、思いやりをもって行動します。
- 一、認知症を正しく理解し、世代や立場を超えてつながり、まち全体で支えます。
- 一、認知症の人が人生の最期まで安心して暮らせるまちを共につくります。
- 一、認知症になっても、希望や生きがいを持って認知症とともに生きていきます。

この約束をわたしたち一人ひとりが深く心に刻み、誰もがふるさと宇治で自分らしく、尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現のために歩み続けることを宣言します。



平成 27 年 3 月 21 日
宇治市長 山本 正

認知症の人にやさしいまち・うじを目指します！





ご清聴ありがとうございました！

(一財) 宇治市福祉サービス公社 中宇治地域包括支援センター
佐野 友美

(電話：0774-28-3686)